



第43回 医療情報学連合大会 スイーツセミナー 6

日時：2023年 11月24日（金）14:30～15:30

会場：F会場（神戸ファッションマート9階・EX4-A+B）

医療DXを検討する中で生まれた早期警戒システム ～その活用で見てきた課題と今後の展望～

演題1

通信事業者から見た医療DX

粕谷 直麿（東日本電信電話株式会社 ビジネスイノベーション本部）

演題2

フィリップスが考えるEWSシステムの現状と今後

小倉 正樹（株式会社フィリップス・ジャパン Connected Care事業部）

演題3

早期警戒システムの運用による医療者の気づきへのアプローチ

村岡 修子 先生（NTT東日本関東病院 副看護部長）

本セミナーは、ハイブリッド開催（現地開催+オンライン配信）ですが、会期後のオンデマンド配信はございません。
セミナーへの参加にはセミナー整理券が必要です。

配布場所：1階 アトリウムプラザ内

配布時間：24日7時45分～11時※無くなり次第終了

セミナーのご紹介

医療DXを検討する中で生まれた早期警戒システム ～その活用で見てきた課題と今後の展望～

演題1（7分）

通信事業者から見た医療DX

粕谷 直麿（東日本電信電話株式会社 ビジネスイノベーション本部）

少子高齢化が進む我が国において、健康寿命の延伸や質の高い医療の提供に向け、デジタル化やICTへの期待は非常に高まっています。また、医療現場においては、医療DXによる業務の効率化や安心した情報伝達が求められています。当社は通信事業者でありながら、医療機関も経営しており、医療現場の「DX化」+医療機関を「つなぐ」をコンセプトに様々な提案を行っています。本日は当社の取組事例をご紹介しますしながら、医療DXと一緒に考える機会になれば幸いです。

演題2（7分）

フィリップスが考えるEWSシステムの現状と今後

小倉 正樹（株式会社フィリップス・ジャパン Connected Care事業部）

病院運営を考える上で、重症部門での適切な在室日数管理、病棟での患者急変の予防はどの御施設でも課題になっていると思います。これらは単に何かのシステムを導入して解決するものではなく、業務フローの見直しや将来的なデータ連携のあるべき姿など、求めるゴール設定が重要となります。医療現場の「DX化」+医療機器を「つなぐ」を実現するために今回の取り組みがどのように行われたか、どのようなシステム構成で実現されたかをご紹介します。

演題3（35分+Q&A）

早期警戒システムの運用による医療者の気づきへのアプローチ

村岡 修子 先生（NTT東日本関東病院 副看護部長）

NTT東日本関東病院では、全入院患者を対象とした早期警戒システムを構築し、2023年8月から運用を開始しました。本システムは、電子カルテ記録だけではなく、各種生体モニターや眠りSCAN®から、スコアリングに必要なデータを収集します。そして、収集したデータをNational Early Warning Scoreを用いてリスク判定し、リスクの程度と点数をナースコールに発報することができます。また、リスクの程度や周術期の患者割合、時間帯別発報件数などをグラフ表示できます。現在、病院全体のモニタリングはベッドコントロール担当看護師が行い、急変リスクが高い患者を発見した際は、病棟看護師に連絡し、医師の診察や重症集中ケアユニットへの移動を打診しています。

本セミナーでは、早期警戒システムの運用と課題、そして今後のビジョンについて話題を提供いたします。

東日本電信電話株式会社
〒163-8019 東京都新宿区西新宿3-19-2
www.ntt-east.co.jp/



株式会社フィリップス・ジャパン
〒108-8507 東京都港区港南2-13-37 フィリップスビル
www.philips.co.jp/healthcare



記載されている製品名などの固有名詞は、Koninklijke Philips N.V.またはその他の会社の商標または登録商標です。

©2023 Koninklijke Philips N.V.